

多摩川中流域にまつわる水神信仰

和田 綾子

Suijin faith (water god) in the middle course of Tamagawa river

Ayako WADA, FSIFEE, Tokyo Gakugei University

「多摩川における信仰と植物のかかわり」という視点から始めた今回の調査では、福生・昭島市境と調布・狛江市境までの中流域を担当した。3ヶ月間の調査では、多摩川における信仰と植物のかかわりを確認することはできなかったが、多摩川流域に住む人々がどのように多摩川とともに生活を営んできたかについて学ぶことができた。今回は、実際に現地を歩いた稲城・府中両市の押立地区、そして日野市と多摩川のつながりを紹介したい。

二つの押立地区と多摩川

多摩川の河口から約30km、稲城大橋兩岸の橋脚の足元に「押立（おしたて）地区」はある。この二つの「押立（おしたて）」地区は、稲城市と府中市の市境である多摩川を挟む形で向かい合っている。

押立地区はもともと一つの地域だったが、寛

文年間（1661～1672年）の大洪水で多摩川の流路が北に移動したことで南北に二分された。分断されたあとの中心地（役場や市場）は府中側にあり、お祭りなどの行事でも稲城側の人々が府中側へ川を渡って訪ねていた。しかし、稲城側の押立地区の人々は数時間をかけて府中側へ渡ることに不便を感じ始め、稲城村（現・稲城市）とのつながりを深めていった。農作物についても、府中側は火山灰地を生かしたコムギ・ダイコン・サツマイモであるのに対し、稲城側は用水路を活用したナシやコメが主で、共同作業を必要とする稲作は、稲城の住民との協力が不可欠であった。

1949（昭和24）年に、稲城側住民のたつての希望であった稲城村への編入が叶い、現在まで地名変更が行われることもなく、押立という地名が両市に残っている。

この押立地区は多摩川に面しているため、台



図1. 押立周辺の地図 (Yahoo!地図を加工)



図2. 島守神社の碑

風や豪雨のたびに洪水被害を真っ先に受ける地区であった。かねてから府中側の押立本村神社が、洪水を治める水神として住民に信仰されていた。稲城側では編入を機に稲荷天神社、島守神社を新たに祀るようになり、水神講は漁民が中心となって執り行っていた。島守神社は1882（明治15）年に現在の場所へ移され、周囲を住宅に囲まれてしまっているが、その境内の碑には「魔の出水 いくどもまもり 島守社」という詩が刻まれている（図2）。

堤防の強化や漁民の減少によって水神講は昭和30年ごろに姿を消したが、稲城市では2009（平成21）年から多摩川への感謝と環境学習の無事を願う目的で、「稲城多摩川水神祭」を執り行っている。

日野市北部地域と多摩川

押立地区からさらに上流へ8km進むと、多摩川と支流の浅川の合流点にたどり着く。多摩川と浅川に挟まれている日野市北部地域は、昔は水稻栽培が盛んで、多くの用水路が敷かれていた。かつて多摩川沿いの地区では、堤防や堰

を見張るための番や組を結成して洪水や渇水に備えていた。多摩川の存在は、水稻栽培で暮らす人々の生活に大きく影響していたことがうかがえる。現在ではほとんどが住宅地となっており、田畑は旧家の周囲に残るほどしかないが、用水路は市のシンボルとして整備されており、住宅地の中を多摩川に向かって何本も流れている。大きな用水路には案内板や解説板が設置されており、市民の散歩コースにもなっている。

多摩川の河川敷に面した栄町には日野宮神社があり、この神社がある四谷地区には「うなぎ伝説」が伝えられている。四谷地区は四姓の家があったことからその名が付き、700年前から日野宮神社と深いつながりをもってきたと言われている。日野宮神社の神体は「虚空蔵（こくぞう）菩薩」で、その使いであるうなぎはとくに大事にされてきた（図5）。

夏から秋にかけての多摩川の増水では、毎年のように四谷地区の堤防が決壊するため、昭和初期までは四谷地区の住民は被害を防ぐために組を作って堤防の監視を行っていた。

伝説では、大雨のある日、決壊間近の堤防に



図3. 日野市北部を流れる多摩川と浅川
（日野市HP内「ひのマップ」に加筆）



図4. 用水（日野本町付近）の「精進場」



図5. 日野宮神社の「虚空蔵菩薩」像

大量のうなぎが集まって、崩れかけた穴の中に潜り込んで穴をふさいで決壊を防いでいるのを見た住民がおり、そのことが地区全体に伝わって、それ以来四谷地区の人々は畏敬の念をこめてうなぎを食べなくなったと言われている。

この伝説は、日野市に残る複数の資料から確認することができた。四谷地区の住民にうなぎを今でも食べないのかと聞き取りを行うことはできなかったが、多摩川にまつわる信仰のひとつとして非常に興味深いものである。

まとめ

今回の調査でいくつかの文献をあたり、多摩川の中流域では、多摩川は農業や漁業において非常に重要な役割を果たし、これらの営みに

よって生活文化をつくりあげてきた人々には、心理的にも身近な存在であったことが確認できた。現地を実際に歩いてみると、かつて田畑であった土地には新興住宅が立ち並び、堤防も立派に整備されている。人々の生活や産業が変化し、そそれに多大な影響を及ぼす洪水や渇水も生じなくなった反面、その土地にすむ人々が自らの生活と自然物や近隣住民との結びつきの存在に気付いたり、思いをめぐらせる機会が失われつつあるのではないかと感じる。

稲城市における水神祭の復活や、多摩川流域で行われている様々な市民活動は、どのような時代でも人は生活の中に自然物との結びつきを求めるものなのかもしれない、と改めて考える調査となった。

参考文献・参考資料：

- ・稲城市（1991）『稲城市史 上』
- ・稲城市（1991）『稲城市史 下』
- ・稲城市教育委員会社会教育課（1983）『稲城市文化財調査報告書第八集 稲城市の民俗（一）年中行事』 pp.113-121
- ・稲城市教育委員会社会教育課（1995）『稲城市文化財調査報告書第14集 稲城市の社寺建築』 pp.109-110
- ・新多摩川誌編集委員会（2001）『新多摩川誌／本編 [中]』 pp.1050-1072
- ・日野市史編さん委員会（1983）『日野市史 民俗編』 pp.123-483
- ・日野宮神社氏子会（1985）『日野宮神社誌』 pp.3-7
- ・府中市史編さん委員会（1974）『府中市史 上巻』
- ・府中市史編さん委員会（1974）『府中市史 下巻』
- ・京浜河川事務所ホームページ「多摩川とは？」
<http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/tama/about/index.htm>（最終アクセス 2010/02/23）
- ・日野市ホームページ「ひのマップ」
<http://www.map.city.hino.tokyo.jp/HinoMap/Default.aspx>（最終アクセス 2010/02/18）
- ・Yahoo！地図「東京都稲城市押立周辺の地図」
<http://map.yahoo.co.jp/pl?lat=35.647589699939&lon=139.51411478254002&z=16&mode=map&pointer=on&datum=wgs&fa=ks&home=on&hlat=35.647589699939&hlon=139.51411478254&layout=&ei=utf-8&type=static&v=2>（最終アクセス 2010/02/23）